

沖縄連帯のつどいアピール

安倍政権は、かけがえのない辺野古の自然を破壊して新基地建設に向けた工事を強行し、今月 25 日には埋め立てのための護岸工事に着手しました。これは、沖縄の民意も、法も無視した「法治国家」にもとる暴挙であり、怒りを込めて強く抗議するものです。

安倍政権は、口を開けば「普天間基地の危険性除去」と言いますが、これは口実に過ぎず、本当の目的は耐用年数 200 年の最新鋭の総合基地を辺野古につくることです。2 本の滑走路、4 万トン級の強襲揚陸艦が接岸できる軍港を備え、弾薬庫、訓練場に隣接し、北部訓練場などとも一体となった、陸海空の機能を合わせ持つ巨大軍事基地に変貌します。岩国をはじめとする全国の米軍基地強化と一体に、日本を米国の侵略戦争のための一大出撃拠点にするものです。

辺野古では、基地ゲート前でも辺野古の海でも、島ぐるみの不屈のたたかいが連日続けられています。72 年前のアジア太平洋戦争で住民の 4 人に 1 人が犠牲になった沖縄県民は、戦争のための基地はつくらせないと、歴史と未来をかけてたたかっています。

安倍政権は、「本格工事着工」を喧伝して、沖縄県民をあきらめさせようとしています。翁長雄志知事を先頭にした沖縄県民がたたかいを決して断念しないことは、最近の世論調査にも明確に示されています。翁長知事は、「新辺野古基地は絶対に造らせない」、「あらゆる手法を持って（埋め立て承認の）撤回を、力強く、必ずやる」と表明し、安倍政権に毅然として対峙する姿勢を貫いています。

いま、この沖縄のたたかいに本土の私たちがどれだけ応えられるかが問われています。沖縄のたたかいは、安倍暴走政治を許さないたたかいの最前線です。沖縄のたたかいをささえ、安倍政権の暴挙を中止させ、辺野古新基地建設中止を迫る運動は、本土の私たちに課せられた極めて重要な課題です。辺野古のたたかいはアメリカいいなりをやめよ、北朝鮮への軍事威嚇に反対し、平和的解決を求めるたたかい、憲法 9 条を守るたたかいと一体です。

沖縄連帯のつどいを全国津々浦々で開催し、宣伝・署名を強め、新基地建設反対の世論をひろげましょう。沖縄支援のキャンペに取り組みしましょう。

沖縄にかけつけ、辺野古、キャンプ・シュワブ前の座り込み行動に参加しましょう。

「共謀罪」を許さないたたかい、戦争法を廃止して立憲主義を回復するたたかいと結んで、「市民と野党の共闘」の力で、辺野古新基地を許さない運動を広げましょう。総選挙に勝利し、軍事覇権主義を強めるアメリカのトランプ政権に無批判に追随する安倍政権を打倒し、辺野古新基地建設計画をかならずストップさせましょう。

2017 年 4 月 29 日 沖縄連帯のつどい

参加者一同